

令和6年度 東京都立第五商業高等学校経営報告（全日制課程）

本校は、昭和16年に東京府立第五商業学校として開校し、84年の伝統に支えられた、多摩地区唯一の商業高校である。勉学にスポーツにと文武両道を推進する地域に根ざした教育を実践して卒業生2万8千名余りの有能な人材を輩出し、各方面で活躍している。商業の専門高校としての本校は商業の専門高校としての使命を果たすため、商業に関する専門的知識と技術を習得させ、人間性を磨き、社会を支える一員であることの自覚のもとに、望ましい勤労観・職業観を養い、自己実現に主体的・創造的に取り組む人間を育成していく。

重点項目	〔評価基準 A：満足 B：概ね満足 C：もう一歩〕※（ ）内の数値は令和5年実績
------	--

1 学校経営・組織体制

企画調整会議および教科主任会議を中心として、学年、分掌、委員会、経営企画室がそれぞれに責任を果たし、連絡調整を図って連携を密にし、教職員の力を集結して円滑な学校運営を推進する。

今年度の 取組目標	具体的な取り組み状況	評 価
①組織力を強化した学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 企画調整会議において、ボトムアップ型により各分掌からの意見や提案をもとに、課題解決を図ることを第一に心がけ、学校課題の解決に取り組んだ。 各分掌では、業務を効率的に行い、各教科や校務分掌の中間まとめ・年間総括にもとづいた課題解決と自律経営推進予算の効果的な編成実施管理に取り組み円滑な学校運営に努めた。 学校運営連絡協議会は、3回実施した。 コロナ禍以前と同様に、地域の商工会、国立市社会福祉協議会、東京都中小企業振興公社等との連携し、地域密着型のビジネス教育を推進した。 	B
②校内IT化と働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 教務部を中心に適宜オンライン学習の取組を行い、ICTリーダーやデジタルサポーターとともにオンライン授業の推進が図れた。 定期考査のマークシート方式の活用、職員会議や企画調整会議のDX化、出席簿のC4t hへの移行など校務のIT化による働き方改革を進め、教育内容の充実を図った。 教職員の月45時間以上の超過勤務者が固定化される等、課題は解決されていないため、次年度において部活動指導員の活用などにより改善を図る。 	B
③喫緊課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 朝の打合せや校内研修をとおして自覚ある行動を促し、サービス事故ゼロ、体罰のない指導の徹底に努めた。 教育課程の「人間と社会」の時間割における課題について、教育課程の変更届により実態に合った授業計画に変更し、来年度についてはポイントリザーブ制とすることを決定した。 令和7年度入学者選抜においては、滞りなく実施することができた。 学校安全対応マニュアルについて見直しを行なった。 	B

2 学習指導

基礎学力の定着と向上をはかり、生徒一人ひとりの学力を確実に向上させ、合格するために必要な学習指導を充実させ、資格取得の推進、進学・就職希望者の進路実現に努める。

今年度の 取組目標	具体的な取り組み状況	評 価
①学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教務部と教科主任会議を中心に、「年間授業計画」、「令和6年度都立第五商業高校における教科指導の重点」等にもとづき学習指導をした。 すべての教科において、主体的・対話的で深い学びの授業を目標とするとともに、語学力を育成する授業、学校2020レガシー、図書館に配備した新聞を活用した社会の出来事と関連させた授業、書評合戦等の読書活動の推進につながる授業等、教育内容の質の保証を図った。 	B

	<p>※学習課題を工夫し、日々の家庭学習を推進したが、1時間以上の学習者が14.3%（18%）にとどまった。家庭学習など自学自習を生徒主導で行わせるため、学ぶことの意義を理解させる努力が必要。</p> <p>※今後もビジネス科目の修得と進路実現のための資格取得を奨励するが、それだけではなく、普通科目の学習もおろそかにしないようにする必要がある。</p> <p>※卒業後に社会で活躍できるよう「考える力」の育成が必要となるため、ビジネスアイデアや課題研究をはじめ、各教科・科目において探究的な学びを推進する。</p>	
②指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開（校内）や研究授業、学校内外での研修成果を生かして、組織的に授業の内容や方法の改善・充実化を図り、学習指導の充実に努めた。 生徒の興味関心を捉え、外部講師等によるセミナーを開催する等して、学ぶ意欲を高める努力をした。また、今年度から2名配置されたJETやALTとの日常的な英語の授業に加え、TGGでの実践的・体験的な学習等を活用した機会を経験させた。 <p>※教科主任会議を中心に、生徒による授業評価（7月）や授業公開（土曜）、校内研修（11月）、教員相互の授業見学をとおして指導方法の工夫・改善を図っているが、相互の授業参観に関しては全体の広がりになっていない。</p> <p>※習熟度別授業、少人数制指導にもとづき、授業の効果的な展開と活用を図るため、さらに学習結果を残す必要がある。</p> <p>※引き続き外部模試等による定点的な検証を行い、学力の定着、向上にむけた授業の工夫をはかり、生徒や保護者にフィードバックしたい。</p> <p>※継続的に観点別学習状況の評価について見直しを行う。</p> <p>※教員を対象に、外部講師を招聘して「教育ファシリテーター研修」を実施した。</p>	B
③資格取得推進	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得を年間指導計画の重点事項に位置付け、該当教科が組織的、計画的な指導の強化に努め、補習・講習の実施と拡充、関連する部活動の強化、個別の支援等を重ね、多彩な資格取得に取り組みせ、進路実現にいかした。 教科指導の充実、日々の補習・講習の実施と拡充、個別の支援等を重ね、生徒の興味関心を捉え、学ぶ意欲を高める努力をし、生徒の力を一層引き出し、高度な資格取得に計画的、意欲的に取り組ませていく。 今後もHRや「人間と社会」等の教科指導をとおして、資格取得のガイダンスを実施し、生徒に目標をもたせ、次の励みとなるように工夫を図っていく。 <p>※習熟度授業 英語科 全商英語検定 1級 5名（4名） 2級 35名（26名） 商業科 全商簿記実務検定 1級 28名（39名） 日商簿記検定 2級 49名（44名） 3級 93名（48名）</p>	A
④読書に親しみ、読書率の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 図書館運営委員会をはじめ、司書教諭、図書館専門員を中心に利用しやすい図書館運営や読書推進に向け、テーマ展示、広報紙・図書案内配付、読書月間の設定や適切な選書を行い、読書推進活動を図った。 <p>※図書委員会の推薦図書の紹介や書評合戦への参加等、授業における新聞の活用、読書による言語活動の充実と図書館教育の推進が図れた。</p> <p>※今年度授業での活用回数132回であったが、次年度は授業における図書館の活用をさらに促進する。</p>	B

3 進路指導

3年間を見据えたキャリア教育（進路指導）の在り方の改善を図りつつ、進路指導を全教員により計画的に行い、生徒の希望進路の実現を図れるよう努める。

今年度の取組目標	具体的な取り組み状況	評価
③キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が中心となり各分掌と連携し、キャリア教育の全体計画にもとづく3年間を見通した進路学習の改善と充実を図った。また、卒業後の生徒のフォローアップ 	

	<p>ブ指導も含めた本校の進路指導を充実させるとともに、進学先や就職先の拡大に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と各学年を中心に、生徒が「進路ノート」を活用し、3年間を見通した文章表現力向上の学習、資格取得計画等による高いレベルでの進路希望の実現を図れるようにする。 ・1学年では「人間と社会」の学習で業界研究・企業研究、大学研究を行い、国際ロータリークラブと連携したインターンシップ事を11月に実施した。 ・2学年では、キャリアに関する講演会、SPIの実施、キャンパスツアー等を実施した。 ・3学年では、面接、ビジネスマナー等の指導を行った。今後、卒業後のフォローアップにも力を注ぐ。 ・4年制大学85名、短大9名、専門学校57名、就職43名、公務員2名 	A
②連携と情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画にもとづき進路指導部と学年の連携を密にし、一貫性のある適切な指導を实践、外部の教育力（適性検査、文章表現向上、勤労観・職業観の涵養・啓発セミナー）を活用し生徒、保護者に対し必要な情報を提供し、生徒一人一人の進路実現に役立てた。 ・「人間と社会」でのインターンシップやボランティア精神の涵養を図るため地域との連携を引き続き推進する。 <p>※学校全体で文章表現力や小論文指導を推進するとともに、校内研修等をとおして、その他の指導体制を構築する必要がある。</p>	B
②進学指導の推進とファインシステムの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の進路指導担当と進路情報交換会を共有し、進路指導の充実化を図った。 <p>※卒業生の47%が大学進学となり、その内96%以上が総合型選抜もしくは学校推薦型選抜を利用している状況にあるため、面接等の指導を進路指導部や3学年担任に偏らず、組織的に行う必要がある。</p> <p>※大学進学へのニーズが増えていることに対して、多様な入試に対応できる指導法を全教員で研究し、生徒が進路実現に挑戦する姿勢・態度を養う努力をする必要がある。</p> <p>※将来的に模擬試験の在り方を検討し、研修をとおしファインシステムを効果的に活用するための努力をする必要がある。</p>	B

4 生活指導・特別活動・健康づくり

いじめの無い安全安心な学校生活を実現させ、規範意識の向上、もと本的生活習慣の確立、マナー教育の充実に努め、互いの人格や生命を尊重する態度を養い、調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる。

今年度の取組目標	具体的な取り組み状況	評価
①本校の生活指導基準に則った生活指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部が中心となり、各学年や生徒会等と連携協力して、朝の挨拶・遅刻防止、交通安全、制服の着こなし、学校施設の適切な使用等の徹底を図った。 ・HR委員や風紀委員を活用した全校集会や、授業の開始終了時の挨拶を徹底し、ノーチャイム制による落ち着いた環境を維持するとともに授業規律の徹底を図った。 ・生活指導についての全校集会を行い、単なる一方的な指導ではなく、生徒一人一人が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付け、他者との円滑なコミュニケーションを図ることができる能力を高めるよう努力した。 <p>※今後も継続して生徒の自覚ある行動を促し、集団生活における規範意識や社会のマナー、モラルについて考える態度を養い、学校への帰属意識を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年生活指導担当を加えた拡大生活指導部会を実施し、生活指導の充実化を図った。 	B
②生命・人権尊重教育の推進、豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、避難訓練を通じて、災害から身を守る意識を高めるとともに、救助や支援の在り方について学ばせた。 ・生命尊重と思いやりの心を育み、五商生としての誇りと自覚をもたせ、帰属意識を高めて自覚ある行動に努めさせた。 	B

	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回（各学期）いじめに関する調査を行い、いじめ撲滅と未然防止、早期発見に努めた。 ・ふれあい月間やアンケート調査等を活用しいじめ防止の取組やスクールカウンセラーによる講演などを活用した自殺防止の取組の充実を図った。 <p>※様々な機会を捉え、生命尊重と思いやりの心を育み、さらに自覚ある行動に努めさせたい。</p> <p>※教育相談委員会開催（8回）</p> <p>※SCによる全員面接実施（1年）保健講話、SC講話を実施</p>	
③美化意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を徹底し、自ら学ぶ場所や使用する場所を整える態度を養い、美化意識の向上を図った。 ・校内におけるごみ投棄について保健相談部の指導に加え自動販売機業者による講話を実施した。 ・各教室からごみ箱の撤去を継続し、不燃ごみ、可燃ごみともに大幅な減量をつなげている。 	A
④セーフティ教室、防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部中心に朝の駐輪指導等、交通安全、薬物乱用防止、特殊詐欺防止、救急救命法講習、SNSマナー、生命の尊重、防災教育を行った。 ・保健相談部を中心に、SCによる1年生全員面接や日常の保健相談に関わる指導を推進した。 <p>※セーフティ教室（薬物乱用防止、交通安全、情報モラル等）を実施し、生徒の自覚ある行動を促し、危険を回避する能力を高め、自他を尊重し、他者と協調する精神を養いたい。</p> <p>※地域との防災訓練、避難訓練をとおして、地域における防災のあり方について考えさせるとともに、防災についての意識を高め、救助や支援の在り方を身に付けさせたい。</p>	B

5 特別活動・部活動（学校行事や生徒会活動によるリーダー養成）

学校行事、部活動、生徒会活動を活性化させ、主体的かつ積極的に活動する態度を培い、生徒の満足度を高め、社会に貢献する生徒を育てる。

今年度の取組目標	具体的な取り組み状況	評価
①生徒が主体的・意欲的に参加する魅力ある学校行事の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やHR活動にあたり、生徒の積極性・主体性、協調性・計画性、創意工夫等を高める指導・援助を学年担任や行事担当者が協力して行い、学びのある学校行事とするとともにリーダーの養成につとめている。 ・生徒会・各種委員会の意義と活動計画、役割を明確にし、リーダー性を育むとともに、成果を実感できるように指導・援助した。 <p>※コロナ禍依然と同様に、通常の体育祭・文化祭を実施することができた。</p> <p>※文化祭については、マーケティングに基づく販売企画や修学旅行などをテーマとした企画などより本校らしい要素を取り入れ、生徒の学校生活の充実につなげたい。</p> <p>※生徒が意欲的に参加する魅力ある学校・学年行事の工夫・改善をしていきたい。</p>	B
②部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年において部活動への加入を奨励し、各種大会への参加と入賞を目指した。 <p>※顧問と外部指導員、部員相互の関係を良好に保ち、技能の向上と人間力の向上に努め、リーダーの育成に努めたい。</p> <p>※運動部は都大会出場を目指し、文化部はコンクール等の入賞を目指すとともに、各種発表会等へ積極的に参加し部活動の活性化を図りたい。</p> <p>※簿記部と珠算部が全国大会に出場し、弓道部が関東大会出場を果たした。</p> <p>※小・中学校との合同練習、地域との連携をとおして部活動を活性化する。</p> <p>※部活動加入率 96.6% (97.6%)</p>	B
③豊かな国際感覚とボランティア精神を育む資	<ul style="list-style-type: none"> ・学校2020レガシーをとおして、豊かな国際感覚とボランティア精神を育みグローバル社会に適応する資質や能力を育成してきた。 	B

質や能力の育成	・昨年度のフィンランドに引き続き、多文化共生をテーマとした生徒海外派遣研修（パリ）に4名の生徒が選ばれ、11月に研修を実施し、2月に東京都の報告会で発表した。	
④主権者教育の推進	・主権者教育を推進し、模擬選挙等とおして社会の一員としての自覚を促し、社会的・政治的な問題についての的確に判断する経験をさせた。 ・政治的教養を育むため、新聞に触れる機会を増やし（図書館に新聞6紙を配置）、物事を公正に、適切に判断する力を身に付けていく環境を整えた。	B

6 健康づくり（心身の健康づくりと体力の向上）

生徒の健康づくりと、教職員の健康管理に努め、教育環境を整え、よりよい学校生活を目指す。

今年度の取組目標	具体的な取り組み状況	評価
①心の教育の推進	・保健相談部は各学年、SC等と連携協力して美化や保健、心身の健康について、委員会による取組を推進し、よりよい環境づくりに主体的に関わろうとする生徒の育成を図った。 ・積極的にSCを活用し、教育相談を充実させ、担任、養護教諭、SC、特別支援教育コーディネーター、それぞれが連携を密にして情報を共有し、早期対応を行って生徒の心のケアに努めた。 ※今後は、生徒の家庭状況や生活習慣からなる生徒の心のケアはもちろんのこと、特別支援教育の側面から支援も増えているため、教員の研修を充実させる必要がある。	B
②体力向上の推進	・基礎体力の向上のため、保健体育科の協力を得て、授業に補強運動を取入れる等して体力の保持・増進に努める。また、健康の保持・増進に努め、体育活動、部活動中の事故防止に努めた。 ・今後も保健体育科が中心に、体力テスト等を活用し、生徒の体力の総合的な向上を図るため、出来る限り運動量の多いスポーツと、それぞれの種目の基本技能の習得を中心に実施していく。	B
③保健・健康教育の推進	・学校保健計画をもとに、関係機関や養護教諭との連携を図りながら生徒の健康づくりを推進した。 ・生徒が自ら健康を意識して自己の健康管理に努め、疾病予防等の指導を推進した。 ・保健相談部や家庭科、保健体育科が中心に、食育や心身の健康、体力の向上等に関する全体計画を作成し、組織的な指導体制を構築し取り組むとともに、委員会活動をさらに活性化させた。 ※全教員が特別支援教育を理解し、情報を共有して生徒に適した指導を組織的に実践する力を付けていく必要がある。 ※保健講話の実施（1年）	B
④教職員の健康維持管理の推進	・定期健康診断受診100%を目指し、教職員自身が健康管理や心身の健康保持と改善に努めた。 ・教職員の健康診断受診率 100%（96.6%）	B
⑤教職員のライフ・ワーク・バランスの推進	・「学校における働き方改革推進プラン」にもとづき、超過勤務が月45時間を超えないよう声かけをするとともに、安全衛生委員会が主体となった職場環境の問題提起、また部活動指導員の活用などを推奨した。 ・定期考査にマークシートの活用を推奨し、採点業務の軽減をさらに促進した。 ※今後は、実際に月45時間を超える教員を減らす仕組みをつくるために、具体的な方策を検討していく。	C

7 募集・広報活動

教職員が一丸となって本校の魅力や情報を発信し、中学生や保護者の商業高校に対するニーズを把握し、学校広報活動を充実させ、本校の果たす役割と意義について地域社会への浸透を図る。

今年度の取組目標	具体的な取り組み状況	評価
③募集・広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員全員による広報活動」のもと、総務部が中心となり、中学校での学校説明や出張授業、校内見学会、体験授業、部活動を通じた交流、校外での合同説明会等、学校全体で組織的に推進した。 ・授業公開を各学期に実施し、中学生とその保護者をはじめ地域等に幅広く広報を行うことができ、今後も広報の在り方を工夫し中学生へ学校の情報がわかりやすく伝わるようにしていく。 ・学校見学会や学校説明会では、生徒会や部活動の生徒のかかわる機会を多く設け、本校の生徒の姿に中学生や保護者が直接触れる機会を増やしていくことができた。 ・学校案内やチラシを工夫して、五商の学校広報活動の充実化を図ることができた。 <p>※目的意識が高く、本校を第一志望とする生徒を多数迎えるため、今後もあらゆる機会を捉えて募集対策に力を入れていく。</p> <p>※推薦入試 2.01倍 (1.94倍)</p> <p>※一次募集 1.35倍 (1.25倍)</p>	A
①学校情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年担任による Classi を活用した連絡、学校からの緊急メールの配信徹底、ホームページの充実、保護者会、三者面談の開催等により、学校と家庭との情報交換の緊密化を図った。 ・公開講座（日商簿記検定2級（商業簿記））を実施し、本校の特色ある教育活動を地域に発信できた。 <p>※情報発信のツールとして今後は、生徒に対してはMicrosoft Teams を、保護者に対してはClassi（東京都版）を活用して発信していく。</p> <p>※ホームページの更新については、来年度から任用するICT支援員を活用し、更新を随時実施し、生徒の活躍等、五商の取組を積極的に発信して学校広報活動を推進したい。</p> <p>※ホームページの更新回数 271回 (180回)</p>	B
②開かれた学校の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においては、「人間と社会」、「ビジネスアイデア」、「課題研究」などにおいて地域企業や大学等と活発に連携することができた。 ・地域ボランティア活動、地域清掃活動等とおして、地域との交流を行った。 ・地域ボランティア活動では、本校ボランティア部が東京保護観察院より感謝状を授与された。 ・「五商ショップ」を2月に開催し生徒が開発した商品や北海道の高校や企業との連携により都民に直接販売実習することができた。 <p>※今後の継続した対応のための体制づくりを行う必要がある。</p>	A

【重点目標達成のための具体的方策】 ※（ ）内の数値は今年度のもの

重点目標	具体的な数値目標
①ミドル層を活用して組織力を強化した学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート回収率 <ul style="list-style-type: none"> 生徒 95%以上 (97.4%) 保護者 95%以上 (78.9%) 地域住民 20%以上 (18.8%) 教職員 100% (100.0%) ・生徒の学校満足度 80%以上 (86.2%) ・生徒による授業評価による校内研修 年 2回以上 (1回) ・研究授業 年 6回以上 (20回以上)
②カリキュラムマネジメントによる教育内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価において以下の数値を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> 予習・復習して授業に臨んだ 50%以上 (46%) 資格指導についての指導体制が充実 80%以上 (88.9%) 一日の家庭学習時間1時間以上の生徒 30%以上 (14.3%) ・卒業生三冠以上 50名以上 (22名)

③組織的な進路指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望達成率 ・模擬試験 ・進路説明会 ・進路講演会 ・進路だより発行 ・在り方・生き方を踏まえた進路講演会 ・学校評価の「進路指導満足度」肯定的回答 	<p>100% (100%)</p> <p>年 3回以上 (1回)</p> <p>年 3回以上 (3回)</p> <p>年 3回以上 (10回)</p> <p>年 3回以上 (3回)</p> <p>年 1回以上 (1回)</p> <p>80%以上 (87.9%)</p>
④生徒の自覚ある行動を促す生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校行事への満足度 ・問題行動 ・自転車事故発生 ・苦情 	<p>70%以上 (72.9%)</p> <p>0件 (9件)</p> <p>0件 (4件)</p> <p>年 5件以下 (6件)</p>
⑤学校行事、部活動、生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率 ・奉仕体験活動、地域交流、ボランティア活動参加生徒数 	<p>90%以上 (96.6%)</p> <p>延べ600人以上 (650人)</p>
⑥心の教育の推進と体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・健康講話・交通安全教室・セーフティ教室の合計実施回数 ・精神科医やSCによる学校保健支援事業の実施 	<p>年 4回以上 (6回)</p> <p>年 4回以上 (2回)</p>
⑦地域や家庭との連携強化、目的意識や学力の高い生徒の入学	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会の延べ参加者数 ・教員の中学校訪問 ・応募倍率 ・ホームページの更新回数 	<p>1500人以上 (約1700人)</p> <p>100校以上 (103校)</p> <p>推薦入試 2倍以上 (2.01倍)</p> <p>一般入試 1.2倍以上 (1.35倍)</p> <p>週 2回以上 (4.6回)</p>